

領域2(プラズマ物理分野): 運営会議

岸本泰明(領域代表)、小野 靖(領域副代表)
(任期: H17年10月-H18年9月)

<http://div.jps.or.jp/r2/>

参考: 前回運営会議 H17年9月20日(同志社大)
(前代表: 田中雅慶氏)

議 事

1. 領域2の運営について(運営会議の開催時間など)
2. 領域2の最近の活動報告
 - 第61回年会における企画の経緯(企画セッション、シンポジウム、招待講演など)
 - 3学会合同シンポジウムについて
3. 今後のスケジュールについて
 - 2006年度秋季大会(千葉大学)における企画(シンポジウム、招待講演など)の日程
 - 上記受付
 - 本大会以降の企画セッションの扱いについて
4. 次期世話人、副代表の選出
5. 若手を対象とした賞の創設について
6. 検討・懸案事項の審議

領域2の運営体制(1)

領域代表／世話人／アドバイザー・ボード (AB)

領域代表(領域2プログラム委員)

2005/10-2006/9

岸本泰明(京都大学)

領域副代表

2005/10-2006/9

小野靖(東京大学)

世話人

2005/11-2006/10

東北大学 金子俊郎(東北大学)

大阪大学 浜口智志(大阪大学)

核融合研 山田弘司(核融合科学研究所)

2006/5-2007/4

東京工業大学 赤塚洋(東京工業大学)

信州大学 澤田圭司(信州大学)

原子力機構 篠原孝司

(日本原子力研究開発機構)

アドバイザー・ボード(2006年3月3日現在)

飽本一裕 : 帝京大学理工学部

伊藤公孝 : 核融合科学研究所

犬竹正明 : 東北大学工学研究科

菊池 満 : 日本原子力研究所那珂研

岸本泰明 : 京都大学エネルギー科学研究科

岡村昇一 : 核融合科学研究所

柴田一成 : 京都大学理学研究科(天文学会)

高部英明 : 大阪大学レーザー研究センター

田中雅慶 : 九州大学総合理工学研究院

寺沢敏夫 : 東京大学理学研究科

(地球電磁気・地球惑星圏学会)

矢木正敏 : 九州大学応用力学研究所

吉田善章 : 東京大学新領域創成科学研究科

門信一郎 : 東大高温プラズマ研究センター

金子俊郎 : 東北大工学研究科

浜口智志 : 大阪大工学研究科

山田弘司 : 核融合科学研究所

永島圭介 : 日本原子力研究所

坂本宜照 : 日本原子力研究所那珂研

佐藤浩之介 : 九州大学応用力学研究所

吉村信次 : 核融合科学研究所

領域2の運営体制(2)

物理学会・領域2運営体制の整備

物理学会・領域2における学術的活動を活発化させ、合理的かつ自律的な意見集約が行えるよう、領域の運営について下記のような体制を整備する。

- 領域代表は、アドバイザリーボード(AB)と協力して、領域運営の基本方針を立案する。領域の運営に係る重要事項は、運営会議(年会および分科会の期間集にインフォーマルミーティングとして開催する)において決定する。
- ABは、領域副代表の候補者を選出する。運営会議は、ABが推薦する候補者を参考として、投票によって領域副代表を決定する。領域副代表は、次期領域代表に就任するものとする。
- 領域代表の任期は1年とする。領域副代表の任期は1年とする。

- ABは以下のメンバーで構成する。

(1) 領域代表(議長)

(2) 領域世話人(6人)。 Plasma-Netを通じて推薦を受け付け、領域代表が選任する。

(3) サブ領域(プラズマ基礎, プラズマ科学, 核融合プラズマ, プラズマ宇宙物理)の代表(4人)。

Plasma-Netを通じて推薦を受け付け領域代表が選任し運営委員会で承認をえる。

(4) 関連学会の(プラズマ・核融合学会, 天文学会, 地球惑星学会, 応用物理学会, 流体力学会など)からの代表(数人)。 領域代表が選任し運営委員会で承認をえる。

(5) 領域代表およびABが必要と認めるもの(数人)。領域副代表, 学会誌編集員を含む。

領域2の運営会議の開催時間

領域2運営会議

領域内における様々な重要案件を学会委員参加のもとに議論するとともに、同会議の承認を通して領域2の決定事項とする。

従来： 年会・分科会の講演終了後のインフォーマルミーティング

H19年9月20日運営会議(同志社大)

「運営会議を昼にできないか。皆が参加できる機会とすべきである」

「実現可能かどうか検討してみる(田中代表)」(議事録)

H17年11月25日 「領域委員会」に申し入れ

- 1) 第61回年次大会において、領域2の運営会議を特例としてプログラムの時間帯に繰り込んで開催する。→ 了承
- 2) 学会プログラム中に「領域2運営会議」として記載する。

cf. 上記申し入れ 2) の了承を前提にしていたため、インフォーマルミーティング(領域会議以前)の申請を見送り(結果的に一覧表に記載されず) → 今後の改善点

61回年会の特色(1)

- キーワードの大幅変更(特に、第1キーワード)
- 企画セッション
 - 2005年3月 3学会合同シンポジウムのフォローアップ
 - 企画セッションの役割
 - 分野／領域内横断、領域横断(合同セッション)の時事的な話題
(cf. セッションキーワードとする)
 - 61回年会 「高エネルギー密度状態の科学」
 - 阪大レーザー研の全国共同利用施設化
 - 「ビーム物理領域(2006年よる領域)」との合同セッション

本「企画セッション」企画の経緯

理事会申し入れ: (1) 他学会員は物理学会と同じ資格で参加 (2) プログラム設計等
についての自由度(20分間講演・テュートリアル講演等: 理事会の承認)

領域会議: 他講演時間とのバランスなど → 企画講演で再提案 → 理事会

→ 「通常の一般講演の枠でレビュー的要素を取り入れた講演」

領域2のキーワードと発表状況

2006年9月() (次回)

- (1) プラズマ基礎:
- (2) プラズマ科学:
- (3) 核融合プラズマ:
- (4) プラズマ宇宙物理:

2005年9月(同志社大学): 168件

- (1) プラズマ基礎: 41(24.4%)
- (2) プラズマ科学(応用を含む): 28(16.7%)
- (3) 核融合プラズマ: 45(26.8%)
- (4) プラズマ宇宙物理: 6(3.6%)
- (5) プラズマ分光・原子過程(領域内横断):
20(11.9%)
- (6) 理論・数値計算: 10(6.0%)
- (7) 診断法・計測器(領域内横断): 8(4.8%)
- (8) プラズマ新領域(領域内横断): 10(6.0%)

2006年3月(愛媛・松山大学): 213件(+シンポ14)件

- (1) プラズマ基礎: 49(23.0%)
- (2) プラズマ科学: 12(5.6%)
- (3) 核融合プラズマ: 101(47.4%)
- (4) プラズマ宇宙物理: 12(5.6%)
- (5) 高エネルギー密度状態の科学 (企画セッション):
39(18.3%)

注) 本企画セッションは、本年会のみ。

2005年3月(東京理科大学): 281件(+シンポ14件)

- (1) プラズマ基礎: 32(11.4%)
- (2) プラズマ科学(応用): 15(5.3%)
- (3) 核融合プラズマ: 82(29.2%)
- (4) プラズマ宇宙物理: 118(42.0%)
- (5) プラズマ分光・原子過程/診断法・計測法
(領域内横断): 14(5.0%)
- (6) 理論・数値計算(領域内横断):
14+6=20(7.1%)
- (7) 診断法・計測法(領域内横断)
- (8) プラズマ新領域(領域内横断)

61周年会の特色(2)

- 提案：シンポジウム：5件 招待講演：1件（cf. 概ね3件が上限）
- (シンポジウム：3件 招待講演：1件)を領域2から推薦、領域会議・理事会で承認

シンポジウム決定のプロセス：領域2HP参照

(第61回次大会 領域2のシンポジウム提案と領域からの推薦について)

H17年 9月20日 運営会議において受付

H17年10月8－29日 Web公募期間

H17年11月10日 領域代表・副代表への締め切り

H17年11月14－17日 ABにおいてメール会議、

同ABでの議論を参考に領域代表・副代表で領域2推薦案

H17年11月18日 領域の最終案をWeb 入力

H17年11月25日 領域会議で承認

問題点・改善点

- 9月20日運営会議提案分に対しては、運営会議で一般会員が内容を把握、それ以降は（メール以外）一般会員の目に直接触れる機会がないため公平性に問題があるのでは？
- 締め切り時点における書類の不備（未定項目、登壇者の未定等）
→ 書類の完成度が重要な評価判断（透明性・公平性などの観点）

領域2のキーワード

61回年会より第1キーワード簡素化

	第1キーワード(セッション)		第3キーワード(研究対象)
1	プラズマ基礎	21	宇宙プラズマ
2	プラズマ科学(応用を含む)	22	天体プラズマ
3	核融合プラズマ	23	実験室系・基礎実験
4	プラズマ宇宙物理	24	磁場閉じ込め核融合 (トカマク、ヘリカル系、その他の磁場閉じ込め)
5	高エネルギー密度状態の科学(企画セッション) 注) 本企画セッションは、本年会のみ。	25	慣性閉じ込め核融合
	第2キーワード(研究内容)	26	その他の核融合方式
6	波動現象	27	境界層プラズマ (周辺プラズマ、プラズマ-壁相互作用)
7	不安定性	28	非中性プラズマ
8	輸送・閉じ込め特性	29	ダストプラズマ
9	加熱	30	反応性プラズマ
10	非線形現象(カオス、自己組織化等)	31	プラズマ源・イオン源
11	乱流(統計的性質等)	32	超高強度レーザー
12	原子過程・分光・診断法	33	相対論プラズマ
13	プラズマ原子過程と輻射輸送	34	プラズマ応用機器 (プロセッシング、加速、推進、発信等) その他
14	強結合系		
15	プラズマ応用		
16	放電物理		
17	宇宙プラズマ現象 (磁気リコネクション、粒子加速、ダイナモ等)		
18	数値解析・シミュレーション法		
19	プラズマ新領域		
20	その他		

プログラム日程 (3/22現在)

日程 会場 (定員)	14日(日)				15日(月)				16日(火)				17日(水)				18日(木)															
	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2												
国際会議室 (300)	9:45-12:15 A003:地球惑星トップ セミナー		A002:高校生によるポスター発表 (国際会議室前)		A003:地球惑星トップ セミナー		S109:地震発生の物理		U053:JAXAにおける宇宙科学		S117:震源過程・震害機構		S111:強震動・地震災害		S206:安芸メモリアルシンポ				S204:震源モデルと震動		S118:地殻構造											
302 (200)	A001:理科の教育内容の提案		A004:21世紀フロンティア		S107:活断層と古地震		S116:地盤構造・地盤震動		J162:断層レオロジーと地震発生**		D125:GPS		D124:地殻変動		S119:断層深部すべり過程		D122:重力・ジオイド		J160:巨大地震発生帯の科学													
303 (200)	V201:火山爆発のダイナミクス		V101:活動的火山		P231:はぶさ		P233:ディープリンク探査		J239:西太平洋海域の発達過程		I222:地球深部スラブ**		E221:地球磁場研究の新展開**				E221:地球磁場研究の新展開**															
304 (160)	T146:テクトニクス		J159:教育アウトリーチ		U051:物理探査フロンティア						O106:物理探査		E141:地震に伴う電磁気現象**		E141:地震に伴う電磁気現象		S207:マッピングとモニタリング		S210:地震波伝播		S110:地震活動											
201A (140)	S208:運動型巨大地震の発生様式		S209:プロセス検証地震予知		V101:活動的火山				V102:マグマシステムと噴火		L215:温暖化防止		I143:地球深部科学				E219:環境-生物相互作用 / L216:低緯度域の環境変動解析		G228:ガスハイドレート													
201B (140)	E137:宇宙天気				I222:地球深部スラブ**				P154:惑星科学				M144:惑星大気圏・電磁圏		P230:火星				L129:古気候・古海洋													
オーシャンB (140)	U054:プラズマ科学シンポジウム				U054:プラズマ科学シンポジウム				U054/E221:合同セッション**		U054:プラズマ科学シンポジウム		U054:プラズマ科学シンポジウム				E136:磁気圏電離圏結合		E140:磁気圏物理													
301B (130)	J161:海洋底地球科学				E139:大気圏/熱圏下部+大気化学				E135:地磁気・古地磁気		B217:地球生命史		B218:アストロバイオロジー		U052:閉鎖生態系生命維持		G149:長期火成活動と火山発達史		P232:カウントダウン月探査													
301A (100)	P155:宇宙惑星固体物質				C128:固体地球化学・惑星化学		Q126:第四紀		D123:測地学		J241:低周波振動現象		E138:電離圏・熱圏		E136:磁気圏電離圏結合		G150:地層処分		G147:地域地質と構造発達史													
101A (70)	S114:地震予知		S205:フロンティア地震学		J238:生物地球化学		W214:コアが拓く地球環境変動史		W212:雷水学		W213:雷水圏と気候		E132:太陽圏		J240:映像の地学		E134:地球内部電磁気学		Z237:大気電気現象		S108:地震に伴う諸現象		S115:地震一般		O203:空中地球観測		K202:中性子と地球惑星科学		Z235:GIS		Z234:環境リモートセンシング	
101B (70)	J156:地球流体力学		J157:情報地球惑星科学				I142:レオロジーと物質移動		K103:オフィオライトと海洋底		H120:水循環・水環境		K104:岩石・鉱物・資源		G151:変形岩・変成岩		Z236:地形		K105:鉱物物理化学													
202 (70)	J158:地球惑星システム		T225:フィルピンのテクトニクス		J242:キッチン地球科学		T145:地下温度構造・熱過程		Q127:沖積相研究の新展開		T224:応力逆解析手法とその活用		H121:同位体水文学2006		H211:都市域の地下水・環境地質		Y153:地質ハザード・地質環境		G227:堆積物から紐解く自然災害		G226:実験で探る地形と地層		G148:堆積と表層環境		L130:海一過去・現在・モデル		B220:地下生物圏		B131:生命・水・鉱物相互作用			

特別公開セッション ユニオンセッション ** インターナショナルセッション

5月16日オーシャンB会場で、AM1,AM2(09:00-12:15)に、U054「物理・天文・地球惑星合同プラズマ科学シンポジウム」とE221「地球磁場研究の新展開」の合同セッションが開かれます

ポスター発表: コンベンション ホール	14日 A001:A002:A003:A004:E137:J156:J157:J158:J159:J161:J238:J242:P155:S114:S205:S208:S209:T146:T225:U054:V101:V201 *A002:高校生によるポスター発表 国際会議室前 13:15-15:15(コアタイム)	15日 C128:E132:I142:I222:J162:J239:J241:K103:P231:P233:Q126:Q127:S107:S109:S111:S112:S113:S116:S117:T145:T224:U053:U054:V102:W212:W213:W214	16日 D122:D123:D124:D125:E134:E135:E139:E221:H120:H121:H211:L215:M144:O106:P154:P230:P232:S108:S110:S115:S118:S119:S206:S207:S210:U051:U054:Y153:Z237	17日 B131:B217:B218:B219:B220:E136:E138:E140:E141:E221:G147:G148:G149:G150:G151:G152:G226:G227:G228:I143:J160:K104:K105:K202:L216:O203:S204:U052:U054	18日 Z234:Z235:Z236:L129:L130 *最終日のみ国際会議室前 12:15-13:45(コアタイム)
---------------------------	---	---	---	---	---

ポスターコアタイム:17:15-19:15 掲示・閲覧:10:00-20:00

「企画セッション」の企画について

企画セッションの役割

→ 分野／領域内横断、領域横断(合同セッション)の時事的な話題

領域2の「第1キーワード」として登録(運営委員会の審議事項)

cf. 秋季大会: 2006年 9月23日(土)－9月26日(火)

千葉大学西千葉キャンパス は間に合わず！！

3. 招待講演、企画講演、シンポジウム企画申込期間(Web受付)

(物性領域 4月10日～4月30日)

→ 2007年 春季大会(鹿児島大学)の「企画セッション提案」

○ 5月14－17日 3学会合同シンポジウム(幕張メッセ)

○ 5月8日週 アドバイザリーボードにおいて議論

○ 秋季大会時の領域2運営会議において審議

○ 2006年春季大会において実現

2006年秋期大会関連の今後のスケジュール

1. 招待講演、企画講演、シンポジウム企画募集掲載 会誌3月号
2. 講演募集要項掲載
3. 招待講演、企画講演、シンポジウム企画申込期間(Web受付)
(物性領域 4月10日～4月30日) (→ 領域2への公開(Web・メール)?)
- 5月14-17日 3学会合同シンポジウム(幕張メッセ)
4. インフォーマルミーティング申込期間(Web)受付 (4月10日～5月26日)
- 5月8日週 アドバイザリーボード
- 領域代表によるWeb入力締切 5月17日
5. 素核宇領域・物性領域プログラム小委員会／領域委員会 5月24日
6. 一般講演 申込期間
郵送: 5月10日～5月26日、Web: 5月10日～6月4日
7. プログラム編集会議 6月16日
8. プログラム初校校正 7月初旬
9. プログラム暫定版Web公開 7月上旬
10. 講演概要集原稿締切(Web、pdf 同時) 7月14日
11. 座長依頼発送 7月初旬
12. プログラム掲載 会誌8月増刊号

次期副代表の選出

- 2006年10月－2007年9月期 次期副代表候補（代表：小野靖氏）
- 2007年10月－2008年9月期 代表

石原 修 氏 横浜国立大学工学研究院

2006年10月～2007年9月まで 代表： 小野 靖(東大)

副代表： 次期副代表に選ばれた方

次期世話人の選出

○ 2006年11月－2008年10月の世話人

草野完也氏（プラズマ宇宙物理）

海洋研究開発機構 地球シミュレータセンター

比村治彦氏（プラズマ基礎・科学）

京都工芸繊維大学 工芸学部

渡邊智彦氏（核融合プラズマ）

核融合科学研究所 理論・シミュレーション研究センター

現世話人（50音順、敬称略）

2004年11月－2006年10月

金子俊郎氏（東北大学）

浜口智志氏（大阪大学）

山田弘司氏（核融合科学研究所）

2005年11月－2007年10月

（事務上任期：2006年5月－2008年4月）

赤塚 洋氏（東京工業大学）

澤田圭司氏（信州大学）

篠原孝司氏（日本原子力研究開発機構）

物理学会における「若手奨励賞」

2006年9月25日運営会議(議事)

理事会での議論の参考のため領域で議論して欲しいと物理学会長からの要請

田中:出された意見をMAへ出して、意見を求める。

賞の創設に関する議論のスケジュール(案)

05年09月 領域2運営会議 問題の提案と議論、意見収集(一部決定)

05年10月 運営会議議事録配布(PlasmaML), 意見収集

05年12月 アドバイザリーボードにおいて原案作成

06年03月 61回年会運営会議において最終案決定

06年09月 秋季大会において第1回受賞者決定

議論のポイント:

1) 受賞の対象 1)論文賞、(2)講演賞、(3)論文・講演双方 など

- ・ 応用物理学会／電気学会
- ・ 本当に若手にする

2) 審査体制と審査の透明性／公平性

- ・ 選考には多くの人コミット

物理学会における「若手奨励賞」

運営会議(議事)での議論

「物理学会として賞を出さないという宣言をする考え方もあるのではないか」

「それは時代観からありえない。3-4年理事会で議論した結果、やるべきだということになった」

注) 同様の意見が領域会議において他領域委員より出された。

ABでの議論

賞そのものに否定的。分野や領域として時間を費やすことが本人、および、周囲の人々の労力に見合うか、また、選考委員の労力に見合ったインパクトがあるか疑問。人で不足のプラズマ分野で労力を増やすことにも問題があろう

「賞」のあり方を継続的に議論するとともに、コミュニティの意見を反映させて、より意義あるものに向向上に努めることを条件に、まずはスタートしたい。

理事会における「若手奨励賞実施要綱」

- (0) 目的： 将来の物理学をにやう優秀な若手研究者の研究を奨励し、日本物理学会をより活性化するために本賞を設ける。
- (1) 人数： 本賞の受賞対象者の上限は、各領域に基本枠1人、さらに、過去3回の年次大会における講演者数(招待講演、シンポジウム、ポスターも含む、ただしパネルなど複数登壇者のあるものは除く、複数領域共催も含む)に比例して定員をわりふる。比例定数は全体として50人以下となるよう調整する(四捨五入による効果は許容する)。具体的には付録1参照。なお、秋季(春季)大会は複数登壇もあることから、各領域の実数を見るには不向きであるので本件データの対象としない。
- (2) 賞の名称：本賞の名称は日本物理学会若手奨励賞とする。
- (3) 対象： 受賞の対象は各領域で決定するが、学会講演、学術論文、学位論文など、本賞の趣旨に合致するものであること。若手の定義も領域の判断によるが、受賞者は物理学会会員にかぎる。各領域の判断により、賞を領域内の各グループで分割し、それぞれが別の基準を設けても良い。授賞者は学会長とし、会長名で賞状を授与する。

理事会における「若手奨励賞実施要綱」

- (4) 義務： 受賞者は受賞後最初の年次大会で招待講演を行うこと(この登壇は一般の講演とは別枠で、領域の講演数にはカウントしない)。受賞者は、この招待講演の時にかぎり大会参加費を免除する。
- (5) 開始： 合意のできた領域ごとに授賞を始める。全領域で準備ができていなくても良い。
- (6) プロセス： 領域代表は、領域の合意により、**募集要項**(2年次以降は変更のあった場合のみ)、**審査員名簿**、必要なら別添資料を学会に提出し、理事会での了承を受けて、授賞候補者の選考を行う。領域は招待講演を行う大会のプログラム編成委員会開催までに候補者を選出し、審査の経緯と結論を理事会に文書で報告しなければならない。理事会では選出された候補者を審議し、受賞者を確定する。
- (7) 時期： 2007年の年次大会に授賞を始める。領域ごとの人数は3年後にみなおす(2010年の年次大会の授賞から)。年次大会が秋にある場合もあるので、2010年の年次大会の授賞者の数は2006年(61回)、2007年(62回)、2008年(63回)の3回のデータを用いて、2009年度に審査して2010年の年次大会で授与する奨励賞の数を再決定する。以下、3年ごとに同じサイクルを繰り返す。

理事会における「若手奨励賞実施要綱」

- (8) 取り消し： 受賞者が本会の名誉を傷つける行為を行った場合、理事会は賞を取り消すことができる。
- (9) 例外事項： すでに同趣旨の賞を実施している分野では、この規定に関わらず、領域特有の事情で個別の措置が必要なら、理事会での承認を持って適応することができる。ただし、受賞者の上限はこの限りではない。

付録1 2003、2004、2005年の年次大会のデータからの受賞者決定方式

ここでAは各領域における受賞者の上限で $A=3$ 年間の平均占有率($\%$) $\times 0.31+1$ 、を四者五入、である。

ここで、19の領域があり、残り31人を占有率で比例配分した。

	2003(58)	2004(59)	2005(60)	A
素粒子論領域	4.91	4.17	4.41	2
素粒子実験領域	3.71	3.82	3.55	2
理論核物理領域	4.11	3.95	5.45	2
実験核物理領域	4.8	5.02	4.5	2
宇宙線・宇宙物理領域	5.81	5.49	5.2	3
ビーム物理領域	2.21	2.43	2.01	2
領域1	6.12	5.51	5.07	3
領域2	4.27	4.98	6.79	3
領域3	7.51	7.01	6.88	3
領域4	6.63	3.97	3.66	2
領域5	6.59	6.56	6.42	3
領域6	3.19	3.41	2.99	2
領域7	4.8	5.27	5.41	3
領域8	11.82	13.3	12.55	5
領域9	5.52	5.64	5.2	3
領域10	4.09	3.82	4.14	2
領域11	8.8	9.01	7.62	4
領域12	3.62	4.82	6.36	3
領域13	1.5	1.83	1.79	2
計	100	100	100	51

JPSJにおける論文発表状況

巻(年代)	プラズマ関連(＊)
Vol.74 (2005)	11
Vol.73 (2004)	14
Vol.72 (2003)	12
Vol.71 (2002)	20
Vol.70 (2001)	32

注) Gases, plasmas and electric discharges に限る

可能な日程など

	2006年3月 年会 運営 会議	AB 原案 作成	2006 年9月 分科 運営 会議		プログラ ム編集会 議 (12月)	2007年 3月分科 運営 会議	審査 委員会 2007年 5月		プログラ ム編集 会議 (6月)	2007年 9月年会 運営 会議	審査 委員会 2007年 10月	プログラ ム編集 会議 (12月)	2008年 4月年会 運営 会議
										第1回 招待講演			第2回 招待講演
	領域2 方向性 の決定		領域2 内規等 の承認	領域2 内規 募集 要項 審査員 名簿等 理事会 提出 理事会 承認		領域2 候補者 決定 理事会 報告 理事会 2007 年度 受賞者 決定通知	募集 要項 審査員 名簿等 理事会 提出 理事会 承認				領域2 候補者 決定 理事会 報告 理事会 2008 年度 受賞者 決定通知		
論文賞 など					論文賞 申込み	論文賞 審査			論文賞 申込み	論文賞 審査			
講演賞 など					講演賞 申込み 講演賞 エンリー	講演賞 審査			講演賞 申込み 講演賞 エンリー	講演賞 審査			

	概要	年齢	審査体制	応募方法
プラズマ・核融合学会 学術奨励賞 論文・講演 (一体型)	1) 学会誌での論文、年会・講演会・連合講演会での独創的成果の発表、将来の飛躍が期待される若手研究者	1) 35歳未満 2) 若手研究者の活動自身を表彰(発表論文に対する賞としていない)	1) 選考委員会は、各専門分野に対して3名以上の専門家に内容評価を依頼 2) 必要に応じて専門部会設置	1) 非エントリー方式 (正会員2名以上の連名などによる推薦)。 2) 講演・ポスターは座長を推薦者に含む
応用物理 JJAP 論文奨励賞	1) 将来性をうかがわせる優秀な原著論文	1) 35歳以下		1) 自薦・他薦両方
講演奨励賞	1) 関連講演会で応用物理の発展に貢献し得る優秀な一般講演論文(ポスターを含む) 2) 講演件数の1%以内	1) 33歳以下		2) エントリー方式 (論文の成果・位置づけ、特筆すべき点など必要項目の)
電気学会 論文発表賞 A,B (講演)	優秀な若手の論文発表者を表彰 A 賞: 全国大会発表論文 B 賞: 支部連合発表論文	35歳未満	事前依頼した審査員(幹事団)の3人(研究会は2人)以上が採点。	1) 非エントリー方式 (推薦方式)
原子力学会 奨励賞 論文・講演 (一体型)	本学会誌、英文・和文誌、学会主催の国際会議論文集、学会発刊図書の研究論文・技術報告、「春・秋の大会」での口頭発表を対象、将来性に富むめば、未完成のものでもよい	35歳(1969年4月1日以降の出生者)		1) 自薦・他薦両方

若手賞に関するABの意見(1)

・論文賞もいいが審査に大きな労力が求められる。自薦・他薦でノミネートされた講演のセッションで選んだ方がよい。(論文・講演)

・コミュニティの共通基盤として、学会に参加するという行為は確保されているが、自分達の学会誌へ投稿するという面ではもう共通の基盤は失われていると考えた場合は、現実論としては講演賞にした方が(参加者の意識を高めるという)実利を上げるのではないかとも考えられる。

・学会論文誌をコミュニティの共通基盤とする努力を、今後どこまで本気で追求するかという気構えにも依ると思う。(論文)

・論文賞と講演賞を両方は、選考の負担が大。賞名称が「若手奨励賞」、選考内容が異なる論文賞と講演賞が同じ名称であるのは不自然。一方とすると、対象若手から講演賞が適している。

・講演賞は、研究内容としては未完成で論文を投稿するには至っていないものでも、学会での講演としてはまとまっており、独創的かつ発展が見込まれる研究を受賞対象とすることが可能。

・応用物理学会は33歳以下の講演者を発表賞の対象。敷居も高くはないので申請しやすく、学生を含む若手研究者の一つの目標。

・申請数が少なくなる可能性がある論文賞より、多くの人に申請していただける。(講演)

若手賞に関するABの意見(2)

- ・若手奨励賞は、「論文賞」をまず確立。論文賞のほうが手続きの曖昧さや、不公平感が少ない。
- ・講演の賞は審査が難しい。論文と講演という異種のを並べて優劣を論ずるのは極めて困難。
- ・理事会からは、領域が独自の表彰を設けることも認められているので、「学会会長の名前で表彰状が出る若手の奨励賞」と切り離し、別途検討すべき。講演賞をこちらで考える可能性がある。
- ・学会活動の振興が目的だから、対象とする雑誌は、物理学会のかかわるものに限るべきで、海外の雑誌に拡げない。(論文)

-
- ・3学会合同セッションが走っており、その上に論文賞と講演賞の2種類を実施すると慣れていないのでどれだけ労力がかかるかわからない。(初めから無理しない方が無難)
 - ・論文賞のみをまず実施し、その選考過程がルーチン化した時点で、講演賞の要望が強く、同時に審査サイドやABに余力があれば、そこで講演賞を設けられないか。(論文)

-
- ・物理学会若手奨励賞は若手奨励賞(論文賞)と若手奨励賞(講演賞)の両方あっていい。理事会のガイドラインにも対象は学会講演、学術論文、学位論文など、とある。
 - ・論文賞は重みがあり、講演賞は学会発表の場の活性化に役立つ。個人的には3人分の賞を論文賞1、講演賞2に分けたらと思う。(論文・講演)

	概要	審査方法	メリット	デメリット	デメリットの改善策
1) 論文賞	学会雑、 JPSJ, Progress		<ul style="list-style-type: none"> ・審査が客観的・厳密(外国人引用件数など)・賞に“重み ・審査員の負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイミングが遅い。受賞年齢が高くなる。 ・受賞対象者が若干不明確 ・対象論分数が多くない 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 審査過程で外国人による論文引用参考 2) 学会関係の論文投稿を促す役割
2) 講演賞	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 ・ポスター 		<ul style="list-style-type: none"> ・発表(大学院生)の質の向上 ・審査対象が明確 ・研究と受賞の間隔が短い・タイムリー 	<ul style="list-style-type: none"> ・賞の“重み”・客観性が曖昧 ・審査の困難性、審査員の負担 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 同一(重複)審査員が全対象者を審査する制度 2) 他論文を含めて審査
3) 論文賞・講演賞 (両方企画)	<ul style="list-style-type: none"> ・論文 ・講演 		<ul style="list-style-type: none"> ・受賞対象が明瞭 ・論文・講演双方の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・選考内容が異なるものを同列に扱う困難性 ・審査の労力が大 	いずれか一方で開始、後様子を見て検討
4) 若手賞 (論文・講演の区別なし)	講演・論文の総合評価		<ul style="list-style-type: none"> ・研究者の活動自身の表彰 ・学会以外の論文も対象 	受賞対象が不明瞭	論文と講演を両方合わせて審査(労力大か)
領域独自の賞 (論文あるいは講演)			<ul style="list-style-type: none"> ・若手賞を補完 ・表彰数を領域で設定 	・物理学会	

議 論

例えば、一案

- 本運営会議での意見聴衆
- 「論文賞」から実施し、その選考過程がルーチン化した時点で、選考過程での問題点を抽出するとともに、講演賞の要望を見極める。3学会合同シンポジウムなどが一段落した時点で審査サイドやABの余力を見て、「講演賞」もしくは「若手賞」のあり方の再検討を行う。
(「大会での質の向上」とともに、JPSJ など、学会論文誌への投稿増大の一助とする)
- 毎回の運営会議での議題しとして、状況報告を行うとともに、要望の聴衆、あり方の議論を行う。

検討事項

1. 世話人の任期(Bグループ)の半年の“ずれ”についての領域会議・理事会への申し出
2. アドバイザリーボード(AB)委員の推薦募集、任期などの議論